

SEMINAR ON

「GlobalにCompetitiveな学生輩出のためにII-大学は何をすべきか」

於東北大学片平キャンパス サクラホール、11月21日

共催：東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究

東北大学高等教育開発推進センター

日本の将来は若手に委ねるところ大であります。論理的に物事を考え、プロアクティブに行動し、グローバルに活躍できる若者は多くなく、諸外国に対する日本の相対的地位は長きにわたり年々低下しつつあります。そこで、本セミナーでは「GlobalにCompetitiveな学生」輩出のためにII-大学は何をすべきか」と題して産業界の有識者から大学への期待、必要な人材の資質及び大学での取り組み事例等についてご講演をいただき、問題の本質、社会的な取り組みの必要性、大学プログラム及び若手資質改善等について紹介いただき、続くパネル討論でもさらに理解を深めることにより、学生の動機付け、大学における課題・必要な取り組み等の明確化等を目指します。

第3回 「GlobalにCompetitiveな学生輩出のために II-大学は何をすべきか」

- ・開催日：11月21日（月）
- ・時間：13:00-18:00
- ・場所：東北大学片平キャンパス サクラホール

- WHO SHOULD ATTEND -

“就職予定の学生”

“日本の未来を担う方々”

参加費無料

プログラム

13:00 ~

開催挨拶

基調講演 1 北道 佳久 氏 (帝人海外事業企画室)

「明日からボーダレスに聞えますね? ~産業界が期待する人財像~」

基調講演 2 安達 文幸 氏 (東北大学)

「東北大学電気・情報系グローバルCOE(情報・電気・電子分野)の活動状況」

基調講演 3 笹瀬 巖 氏 (慶応大学理工学研究科)

「慶應義塾大学大学院理工学研究科(情報・電気・電子分野)での研究教育活動活性化への取り組み」

基調講演 4 加藤 修三 氏 (東北大学電気通信研究所)

「プロジェクトマネジメントをベースとした論理的R&D遂行法：論理的に思考する学生の輩出へ」

基調講演 5 羽田 貴史 氏 (東北大学高等教育開発推進センター)

「大学はどこまで主体的な学生を育てるのに成功してきたか」

16:20 ~

Coffee break

16:40 ~

パネル討論 「大学・学生はグローバル化に向け何をすべきか」

司会：加藤 修三 氏 (東北大学)

パネリスト：北道 佳久 氏 (帝人)、安達 文幸 氏 (東北大学)、笹瀬 巖 氏 (慶応大学)、
羽田 貴史 氏 (東北大学)

懇親会 18:00-19:00 参加費：¥1,000 (学生無料)

参加お申込：東北大学電気通信研究所 相澤なお美 (11月18日正午までにお申し込みください)

Tel:022-217-5477 E-mail: naomi.aizawa@riec.tohoku.ac.jp

SEMINAR ON

「GlobalにCompetitiveな学生輩出のためにII-大学は何をすべきか」

於東北大学片平キャンパス サクラホール、11月21日
共催：東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究
東北大学高等教育開発推進センター

第3回セミナー 基調講演講師及びパネリストの紹介

北道 佳久 (Kitamichi, Yoshihisa) 氏

帝人株式会社 経営企画部門 部門長付(成長地域戦略担当)

1974年3月 青山学院大学経済学部卒業

1974年4月 帝人株式会社入社 松山工場勤務・繊維営業・繊維マーケティング業務を経て

2001年 TIFICO (Teijin Indonesia Fiber CoLtd) 取締役管理部門長

2004年 帝人ファイバー(株) マーケティング部長

2007年 帝人(株) 海外事業企画室長

2009年 帝人(株) マーケティング戦略室長、Teijin India Private Limited 取締役・帝人(中国)投資有限公司 董事・帝人 北京事務所 董事長

2011年 帝人(株) 経営企画部門(成長地域戦略担当)



安達文幸 (Adachi, Fumiyuki) 氏

1973年3月 東北大学工学部電気工学科卒。NTTおよびNTTドコモにて、一貫して、移动通信方式およびデジタル移動無線通信技術の研究開発に従事し、第3世代移動無線アクセスW-CDMAを開発。2000年1月より東北大学大学院工学研究科教授。次世代超高速移動無線伝送に関する研究と通信システムに関する教育に従事。2011年より東北大学Distinguished Professor, IEEE VTS Distinguished Lecturer。2000年IEEE・VTSアバングァルド賞、2001年電波功績賞・総務大臣表彰、2003年信学会業績賞、2004年トムソン・リサーチフロントアワード、2008年エリクソン・テレコミュニケーション・アワード、2009年テレコムシステム技術賞、2010年内閣総理大臣発明賞などを受賞。



笹瀬 巖 (Sasase, Iwao) 氏

1984年慶應義塾大学院博士課程修了、オタワ大学ポストドクトラルフェロー、講師、慶應義塾大学助手、専任講師、助教授を経て、1999年同大情報工学科教授、現在に至る。現在、IEEE Communications Society Board of Governors (Member-at-Large)、同Tokyo Section Chair。これまで、IEEE ComSoc Asia Pacific Regional Director、Satellite and Space Communications Technical Committee Chair、電子情報通信学会通信ソサイエティ副会長、ネットワークシステム研究専門委員長、通信方式研究専門委員長などを歴任。デジタル通信工学の広範囲の分野にわたって研究に取り組み、これまで学術論文263編、国際会議論文383編などの成果を発表している。



加藤 修三 (Kato, Shuzo) 氏

1977年東北大学大学院工学研究科博士課程修了(工博)、同年 現NTT電気通信研究所入社。1981年から1年間オタワ大学 Post-doctoral research fellowとしてカナダで勤務。1995年には日本にてパシフィック・コミュニケーションズ・リサーチKKを起業し、1996年にはユニデンKKの代表取締役社長となる。また、1998年にはMitsubishi Wireless, Inc., (USA) 上級副社長に、2001年には米国カリフォルニアにOmni Wireless, Inc., (USA)を起業したが、"911"で米国のVCファンディングが止まり、断念。2002年から3年間、"米国企業の成功例"に学ぶべくテラダイナKKに勤務(代表取締役副社長)。日本の無線通信が相対的に多くの国に負けつつある状況を憂い2005年に独立法人情報通信研究機構 (NICT) プログラム・ディレクターに、国際的にコンペティティブな博士を育てるため、2008年に東北大学電気通信研究所 教授(現在に至る)。この間、研究開発、製造、品質保証、国際標準化、日本及び米国にまたがる技術開発センターの設立と製品開発、製造、人材の採用、経理、製品開発、販売、マーケティング及び会社の設立から経営と数多くのグローバルな成功体験を有する。採用のため、日米で各1,000人以上をインタビュー。IEEE及び電子情報通信学会Fellow。



羽田 貴史 (Hata, Takashi) 氏

1979年 北海道大学大学院教育学研究科博士課程中途退学、福島大学教育学部助教授、広島大学高等教育開発センター教授を経て、2007年から東北大学高等教育開発推進センター教授・高等教育開発部長・同大学教育支援センター長。専門は、教育学・高等教育論。『[通史]戦後日本の科学技術』、『戦後大学改革』、『高等教育の質保証に関する国際比較』など高等教育制度・政策研究のほか、大学教員の能力開発研究、大学教育改革の調査研究と実践に取り組み、『大学における「学びの転換」とは何か』、『研究・教育のシナジーとFDの将来』、『ファカルティ・ディベロップメントを超えて 日本・アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリアの国際比較』などの共同研究に参加、2010年から教育関係共同利用拠点「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」リーダー。東北大学では学務審議会委員、同教育情報・評価改善委員会委員長を務めるほか、日本高等教育学会理事、同編集委員長、大学教育学会理事、日本教育社会学会理事、文部科学省大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)設置計画履行状況等調査委員会委員、宮城県高校教育審議会委員、日本私立大学協会附置私学高等教育研究所研究員(現在)、国立大学協会調査企画会議委員(現在)。



次回：「GlobalにCompetitiveな学生輩出のためにIII-産業界の期待」

- ・ 開催日：4月、2012 (講演者と調整し決定します)
- ・ 時間：13:00~ 18:00
- ・ 場所：東北大学サクラホール、または ナノスピ4F会議室
- ・ 講演者： TBD